

## 編集後記

本特集を注意深く読まれた方は映像の「制作」と「製作」の両方が使われていることにお気づきかもしれない。梅棹先生は「映画製作」という表現を使っておられ、今の『国立民族学博物館 展示ガイド』でも「民博製作のオリジナル映像」という表現が見られる。一方で、『広辞苑』第六版では「制作」の定義が「美術作品や映画・放送番組・レコードなどをつくること。また、その作品。」となっている。さらに調べると、映像業界では独特の用法があるようで、みんなぱくのビデオテーク作品のエンドロールでも微妙な使い分けがされている。不統一が校正漏れでないことだけ、指摘しておく。

映像といえば、ドイツのケルン市にあるラウテンシュトラウフ・ヨスト博物館（通称「ワールドカルトゥーレン・ムーゼウム世界文化博物館」）で10月7日に開幕した「巡礼——幸せを求めて」という特別展に、大森康宏名誉教授が監修した四国巡礼の映像が使われている。少しばかりお手伝いしたので、開幕式に行ってきた。みんなぱくのビデオテーク作品制作に多大な貢献をされた井ノ本清和氏がカメラを回した映像が海外の展覧会でも活かされている様子を、井ノ本氏本人に報告することができないうちに急逝されたのが、残念でならない。

最後になりましたが、来年の1月号から編集長が交代します。イクメン編集長の丹羽さんに乞うご期待！（山中由里子）

●表紙：『Room 11, Ethiopia Hotel』（川瀬慈監督作品、2006年）より

## 次号の予告

特集  
**とり**

## 月刊みんなぱく 2016年12月号

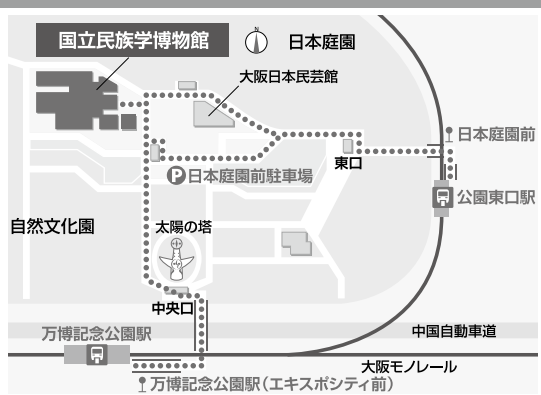
第40巻第12号通巻第471号 2016年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**  
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
 電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信  
 編集委員 山中由里子（編集長） 河合洋尚 菅瀬晶子  
 丹羽典生 南真木人 吉岡乾

デザイン 宮谷一孝 長岡綾子  
 制作・協力 一般財団法人 千里文化財団  
 印刷 能登印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に  
 お願いします。  
 \*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「万博記念公園駅（エキスポシティ前）」「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

### みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

### みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

### みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>

